

令和元年度 分掌チャレンジ 目標設定 (5月)



令和元年 5月16日(木) 職員会議

| 令和元年度 | | 分掌名 | 教務部・生徒指導部・進路保健部・首席 |
|--|---|---|--|
| 学校経営計画 | | | 具体的な目標や方法〔数値目標があれば〕 (どのようなレベルまで、どのような方法で、いつまで、など) |
| 勉強がわかる喜びを伝える | 「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり | 生徒が「分かった」と実感できる授業づくり | 目標: 全教員が授業力向上に努めることにより、生徒の授業の参加率や単位修得率を上げる。 方法: 授業力向上のための校内研修等を実施し、教科の枠を超えて、授業方法やわかりやすい教材開発方法等について考えることで、生徒が理解できる授業の展開につなげる。 |
| | | ICTや視聴覚教材を用いた授業を数、質ともに充実させる。 | 目標: ICT機器を活用した授業を効果的に実施することができる教員数を増やす。 方法: 教科指導等において、ICT機器を効果的に活用できるよう、情報処理委員会と連携し、ガイダンスの実施や、ICT機器の取り扱いマニュアルの充実を図る。 |
| | | 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。 | 目標: 教員間の授業見学機会・研究機会を増やす。 方法: 授業見学週間を設置することで、教科の枠を超えて授業見学を行い、相互の授業力向上につなげる。(年間2回実施) また、教員間の学習会を実施し、教科の専門性を深めることにより、授業力向上につなげる。 |
| | | 授業において、図書室の利用を促進する。 | 目標: 生徒の図書室の来室者数を増やすことで、生徒が主体的に物事を考える力を身につけることをめざす。 方法: 授業における図書室利用の可能性を探り、生徒が図書室を利用するきっかけをつくる。 |
| | 全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いた学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。 | ・携帯指導を始めとした、授業規律に対する意識を、教職員間で再認識する機会を設け、非常勤の先生方にも、生徒指導部より細かく説明を行った。 ・授業中は、「机上に不必要な物を置かせない」、「生徒自身が授業中に携帯電話等を使用しない意識を持つ」、「生徒が授業を集中して積極的に参加できる」という環境作りをめざす。 | |
| 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える | 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 | 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。 | ・授業や調査を妨害するなど、人に迷惑をかける行為は、全教職員で同じ基準と意識を持って厳しく指導をする。 ・喫煙に関する問題に対しても、未成年の喫煙指導だけでなく、成人の喫煙マナー指導も含めて行っていく。 ・他者を認め、他者から認められる行動を取れるように、「総合的な探求や学習の時間」や「ホームルームの時間」を利用して、人権・道徳の意識を高める。 ・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を2%向上させる。(H30年度: 83%) |
| | | 挨拶ができる生徒を育てる。 | 登下校時に、門での声掛けを積極的に行い、掲示板や生徒が作成したポスターを活用して、生徒の自主的な挨拶を促進する。学校教育自己診断の生徒向けアンケートにおいて、「自分は挨拶をしている」の肯定的回答率を3%向上させる(H30年度: 85%) |
| | | 生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。 | ・生徒指導だより等を利用して、各行事でボランティアスタッフを募り、生徒が主体となる行事をめざす。 ・学校教育自己診断の「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%向上させる。(H30年度: 72%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭共に50%以上を保つ。(H30年度: 53%) |
| | | 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。 | ・町内会・近隣中学校に対して、各行事に関する広報活動を活性化させ、地域の方々が関心を寄せる「地域に開かれたより魅力的な学校」をめざす。 ・学年と連携し、保護者懇談等を利用して保護者に体育祭や文化祭の参加を促す。 ・清掃ボランティアへの積極的な参加を生徒に促し、生徒にボランティア意識を高めさせ、ボランティア活動をより活性化させる。 ・部活動加入率を3%増加させ、部活動の活性化をめざし、生徒一人ひとりが活躍できる環境作りをめざす。(H30年度: 78%) |
| 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。 | 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。 | ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。 | ・学校教育自己診断の生徒向けアンケートにおいて、「先生の指導について理解できる」の肯定的回答を3%向上させる。(H30年度: 78%) そのためにも、普段から学年を超えて学校内で連携を密に取り、生徒との関係を構築することに努め、指導の時に限らず必要に応じて、家庭とも積極的に連携して、学校と家庭との意思疎通を図る。 ・保護者向けの学校教育自己診断のアンケートにおいて、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定的回答が85%を下回らないようにする。(H30年度: 77%) ・年5回「生徒指導だより」を発行し、指導に関する周知や注意喚起、落とし物の情報等を生徒に示すことができる機会を設ける。 |
| | | フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。 | (A) 本校のあるべき姿の明示 ⇒ 今までの取組みの検証と新しい取組みの提案 ① 過去3年間に取組んできた内容についての実施状況の検証 ② 現時点での学校が抱える課題の洗い出し ③ 新たに取組む内容の提案 (B) 支援を必要とする生徒への取組み ⇒ 生徒支援の具体的な方策の明示 ① 要支援生徒に対して個別的教育支援計画・指導計画を作成する。 ② ケース会議を行った生徒のアセスメントと支援目標を整理し、指導記録を作成する。 ③ スクールソーシャルワーカーを活用し、子育て支援課等と連携して要保護児童に対しての継続した見守りを行う。 ④ 障がいのある生徒の就職を保障するため、障がい者就労支援センターや精神科医院、ハローワーク等との連携を行う。 ⑤ 夜間助働員や学習支援員の配置・調整を行い、有効に活用できる体制を整える。 ⑥ コグトレ等の認知能力改善プログラムを研究し、生徒の学習意欲や能力を向上させる取組みを開始する。 (C) 中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒ 各生徒の様子を学校全体で感じ取りながら、欠席が続く等、変調があれば、担任を中心に家庭と連絡を密に取る。教育相談委員会でも生徒情報を共有し、生徒への働きかけにつなげる。 (D) 職員研修 ⇒ SSW、SCの活用方法をテーマに、教職員研修を実施する。 |
| | | 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。 | ・予約奨学金の生徒・保護者向け説明会を実施する。 ・6月15日に卒業学年の保護者向け進路説明会を実施する。進路担当者の紹介、具体的なスケジュール、就職・進学の説明、個別懇談などを行う。またスカラシップアドバイザーを派遣してもらい、進学に係るお金の話をしてもらう。 ・奨学金(予約、在学中)の募集案内をホームページに掲載する。 ・進路の手引きを更新し、1年生に配付し、進路ガイダンスで活用する。 ・在校生向けに、アルバイト情報を20件以上紹介する。また、アルバイトを希望する生徒の保護者や、卒業学年生徒の保護者とは、連絡を密にし、確認をとっていく。 |
| | | 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。 | ・各学年の進路指導目標に対応した進路ガイダンスを、5月と11月に実施する。 ・進路ガイダンス、進路ホームルームを通じて、系統的な進路指導となるように、計画的に立案・実施する。 ・外部講師等を多く活用し、様々な人の話を聞く機会を設定する。 ・卒業学年生徒に対しては、全体指導に限らず、個々の希望に応じた個別指導の機会を多く設ける。 |
| 夢や志を抱く喜びを伝える | 進路指導の充実を図る。 | 就業体験をする生徒を増やす。 | ・1年次で、アルバイトについて聞いたり考える機会を、進路ホームルームで設ける。(先生へのインタビュー等) ・就業希望者には個別面談ときめ細かい事前指導(面接練習、履歴書指導)を行い、採用につなげるようなサポート体制を作る。 ・30社以上の事業所に連絡を取り、訪問し、在学中のアルバイト採用や正社員採用を目標とした求人開拓を全教職員で行う |
| | | 校内組織の活性化 | ・新着任者(経年数少ない教員も含む)対象の座談会を、首席を交え、年に2回行う。 ・業務の負担にならないことに配慮し、コンパクトな教員研修を行う。 |
| | | 職務の効率化の取組み | 時間外勤務を軽減させる。 勤務時間内に業務を終わらせる意識を持ち、作業効率を高めるよう各々が努める。 自身の健康について管理する。 健康について意識を高め、自身の健康管理を意欲的に取り組むことができる職場をめざす。 |